



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月13日

上場会社名 スターティアホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 3393 URL <https://www.startiaholdings.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 本郷 秀之
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 CFO 兼 (氏名) 植松 崇夫 (TEL) 03-5339-2109
コーポレート本部長
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	17,312	7.0	2,118	11.4	2,160	10.4	1,541	9.7

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 1,558百万円(14.5%) 2025年3月期第3四半期 1,361百万円(33.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	164.57	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円	百万円	%
2025年3月期	13,155	7,690	57.8

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 7,609百万円 2025年3月期 7,595百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	0.00	46.00	0.00	68.00	114.00
2026年3月期(予想)	0.00	54.00	0.00	81.00	135.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2026年3月期期末配当金の内訳 普通配当73円00銭 記念配当8円00銭

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2026年3月期3Q	10,240,400株	2025年3月期	10,240,400株
2026年3月期3Q	889,919株	2025年3月期	781,190株
2026年3月期3Q	9,366,478株	2025年3月期3Q	9,515,724株

- (注) 1. 期末自己株式数には、「株式給付信託 (BBT-RS 及び J-ESOP-RS)」にかかる信託口が保有する当社株式 (2026年3月期3Q 406,089株、2025年3月期447,360株) が含まれております。
2. 期中平均株式数について、2026年3月期3Q は「株式給付信託 (BBT-RS 及び J-ESOP-RS)」にかかる信託口が保有する当社株式418,454株を、2025年3月期3Q は「株式給付信託 (BBT 及び BBT-RS・J-ESOP 及び J-ESOP-RS)」にかかる信託口が保有する当社株式517,506株を期中平均株式数において控除する自己株式に含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな景気回復基調が続く一方、物価上昇や世界経済の不確実性、個人消費の低迷といった複合的なリスクが継続し、依然として先行き不透明な状況が続いております。このような事業環境のもと、3カ年の中期経営計画の初年度として、既存事業によるオーガニック成長とM&A戦略の推進に注力してまいりました。

当第3四半期連結累計期間においては、2025年4月に迎えた新卒社員の早期戦力化が着実に進展し、1人当たりの生産性が向上いたしました。また、引き続き既存顧客との関係性構築を軸としたアップセル、クロスセルにより顧客1社当たりの単価向上につなげてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は17,312,902千円（前年同四半期比7.0%増）、営業利益は2,118,466千円（前年同四半期比11.4%増）、経常利益は2,160,760千円（前年同四半期比10.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,541,467千円（前年同四半期比9.7%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメント区分を変更しており、以下の前年比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

＜ITインフラ関連事業＞

ITインフラ関連事業におきましては、MFPやビジネスホンなどのOA機器の販売・設置・保守をはじめ、ネットワークやクラウドを活用したITインフラの構築、セキュリティ対策を提供しています。また、光コラボレーションやISP（Internet Service Provider）、電話回線の加入受付代行、電力小売りやLED照明などの環境機器の提供も行い、オフィスのITインフラをトータルで支援しています。

当第3四半期連結累計期間においては、引き続きセキュリティ対策のニーズの高まりによりネットワーク関連機器の販売が好調を維持しております。関連する保守料金の値上げを実施したものの、変わらず契約継続がされており、当社のサービスが必要不可欠なITインフラ基盤として評価されております。また、2025年10月にWindows10のサポートが終了したものの、第3四半期においても引き続きパソコン買い替え需要が堅調に推移いたしました。パソコン販売を起点とした顧客との接点強化により、電力小売りと光コラボレーション、法人向けトータルサポートのビジ助などのストック商材についても好調に受注が推移いたしました。

その結果、ITインフラ関連事業の当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は13,719,610千円（前年同四半期比6.0%増）、セグメント利益（営業利益）は1,374,984千円（前年同四半期比0.3%増）となりました。

<DXソリューション関連事業>

DXソリューション関連事業におきましては、マーケティングや営業活動を効率化する統合型SaaSツール「Cloud CIRCUS（クラウドサーカス）」に加え、総務や経理などのバックオフィス業務を自動化する業務自動化ツール（RPA）「RoboTANGO（ロボタンゴ）」や、クラウドサービス同士を連携させるツール（iPaaS）「JENKA（ジェンカ）」などを提供し、業務全体の効率化と生産性向上を支援しています。

当第3四半期連結累計期間においては、1社の顧客に複数商材導入頂くためのクロスセルの強化につとめ、顧客ニーズや検討フェーズに応じた最適なアプローチ体制を再構築いたしました。重点的な支援を必要とする顧客にはカスタマーサクセスが深く関与して活用を促進する一方、効率的な情報収集を求める顧客にはインサイドセールスが非対面（Web）での迅速なフォローアップを実施するなど、顧客の求める形に沿った体制を構築しております。この組織的なアプローチの最適化と、インサイドセールスBPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）の定着が奏功し、受注率が向上いたしました。また、世の中のAIの浸透と共に、検索エンジンの「AIO（AI検索最適化）」への関心が高まりをみせ、AIO対策に関連するセミナーの集客数は従来の5倍に達するなど、中小企業のAI活用ニーズを的確に捉え、WEB制作やコンサルティング、デジタルガイド「Fullstar」、AIチャットボット「IZANAI」の受注に寄与いたしました。

その結果、DXソリューション関連事業の当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は3,579,591千円（前年同四半期比10.8%増）、セグメント利益（営業利益）は639,965千円（前年同四半期比51.4%増）となりました。

<CVC関連事業>

CVC関連事業におきましては、引き続き投資先のバリューアップ支援に努めております。

その結果、CVC関連事業の当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高はなく（前年同四半期も売上高なし）、セグメント損失（営業損失）は1,253千円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）750千円）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は13,155,398千円となり、前連結会計年度末と比較して1,048,682千円減少いたしました。その主な内容は、棚卸資産の増加91,643千円、繰延税金資産の増加48,458千円がありましたが、その一方で、流動資産その他の減少515,523千円、現金及び預金の減少277,918千円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少219,078千円があったことなどによるものであります。

負債の部は5,465,398千円となり、前連結会計年度末と比較して1,088,896千円減少いたしました。その主な内容は、長期借入金の減少721,254千円、1年内返済予定の長期借入金の減少365,290千円、賞与引当金の減少114,433千円がありましたが、その一方で、流動負債その他の増加117,341千円があったことなどによるものであります。

純資産の部は7,690,000千円となり、前連結会計年度末と比較して40,214千円増加いたしました。その主な内容は、親会社株主に帰属する四半期純利益1,541,467千円がありましたが、その一方で、配当金の支払1,200,501千円、自己株式の増加318,276千円があったことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、2025年5月22日発表の「中期経営計画」のとおり、2026年3月期を初年度とする新たな3カ年の中期経営計画を策定し、既存事業によるオーガニック成長を継続しつつ、M&A戦略をさらに強化することで、顧客基盤のさらなる拡大と既存事業とのシナジー創出を図り、企業価値の最大化を目指してまいります。

ITインフラ関連事業においては、これまで、複数の類似企業と事業譲受による買収・統合を行い、規模の経済や事業シナジーを追求することで企業価値を高めるロールアップ型のM&Aの実績により販売エリアと顧客の拡充ができました。当期よりこれをM&A戦略として更に強化を進めつつ、複数商材を利用する顧客数の拡大を進めてまいります。

DXソリューション関連事業におきましては、前期までの中期経営計画において、デジタルマーケティング関連事業における統合型SaaSツール「Cloud CIRCUS」へのサブスクリプションモデルとして投資強化により収益拡大を遂げることができました。当期以降は中小企業のマーケティングと営業強化に留まらず、顧客のビジネス成長を加速し、顧客への提供価値を増やし続けていく上で当社グループの強みである「中小顧客基盤・営業力・中小向け開発力・デジタル活用力」の力を活かした「中小企業向けのBPaaS (Business Process as a Service : 企業の業務プロセスを外部に委託するBPO (ビジネスプロセスアウトソーシング) と、クラウドサービスであるSaaSを組み合わせたサービス形態) 」として提供してまいります。

当社グループとして、ロールアップM&Aで顧客基盤を強化し提供価値を増やし続けることで顧客LTVの向上とビジネス成長を同時実現し続けるサイクルを回し、ITの総合サービス企業として業態を進化させてゆくことで、中長期的な拡大成長を遂げてまいります。

2028年3月期において、以下の目標達成を目指し事業を展開してまいります。

- ・売上高：290億円（既存事業）+80億円（M&A+シナジー領域による目標値）
- ・営業利益：42億円（既存事業）+8億円（M&A+シナジー領域による目標値）
- ・ROE：20%以上

2026年3月期の連結業績見通しは、2026年2月13日に通期連結業績予想の修正を公表したとおり、連結売上高23,600百万円（前期比6.3%増）、連結営業利益3,150百万円（前期比15.1%増）、連結経常利益3,190百万円（前期比14.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益2,160百万円（前期比10.2%増）としております。

(注)本文中に記述しております通期の業績予想など将来についての事項は、予測しえない経済状況などの変化等さまざまな要因があるため、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	6,565,756	6,287,837
受取手形、売掛金及び契約資産	3,499,581	3,280,503
営業投資有価証券	148,993	178,703
棚卸資産	454,618	546,261
その他	1,025,657	510,133
貸倒引当金	△164,706	△179,359
流动資産合計	11,529,900	10,624,080
固定資産		
有形固定資産	226,426	206,393
無形固定資産		
のれん	391,437	337,319
ソフトウエア	934,804	864,523
その他	4,683	4,120
無形固定資産合計	1,330,924	1,205,963
投資その他の資産		
投資有価証券	151,092	122,983
繰延税金資産	431,156	479,615
差入保証金	302,261	293,139
その他	232,318	223,223
投資その他の資産合計	1,116,828	1,118,961
固定資産合計	2,674,180	2,531,318
資産合計	14,204,080	13,155,398

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,483,337	1,412,346
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	1,410,662	1,045,372
未払金	484,459	392,850
未払費用	275,942	309,228
未払法人税等	278,879	364,768
未払消費税等	238,700	202,529
前受金	157,425	240,249
賞与引当金	375,328	260,894
役員株式給付引当金	15,005	8,787
その他	129,927	247,269
流動負債合計	5,249,667	4,884,296
固定負債		
長期借入金	1,294,992	573,738
繰延税金負債	8,436	6,736
その他	1,199	627
固定負債合計	1,304,628	581,102
負債合計	6,554,295	5,465,398
純資産の部		
株主資本		
資本金	824,315	824,315
資本剰余金	1,162,614	1,162,614
利益剰余金	6,573,936	6,914,902
自己株式	△1,043,879	△1,362,155
株主資本合計	7,516,987	7,539,677
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	78,386	69,809
その他の包括利益累計額合計	78,386	69,809
非支配株主持分	54,412	80,513
純資産合計	7,649,785	7,690,000
負債純資産合計	14,204,080	13,155,398

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	16,179,868	17,312,902
売上原価	8,982,925	9,552,166
売上総利益	7,196,942	7,760,736
販売費及び一般管理費	5,294,732	5,642,270
営業利益	1,902,210	2,118,466
営業外収益		
受取配当金	4,795	6,163
為替差益	9,023	11,492
持分法による投資利益	44,216	—
投資事業組合運用益	2,973	29,986
助成金収入	10,242	7,724
その他	9,590	12,706
営業外収益合計	80,842	68,072
営業外費用		
支払利息	13,470	18,297
控除対象外消費税等	6,849	4,744
投資事業組合運用損	1,793	—
その他	3,992	2,736
営業外費用合計	26,105	25,777
経常利益	1,956,946	2,160,760
特別利益		
投資有価証券売却益	43,196	12,462
特別利益合計	43,196	12,462
税金等調整前四半期純利益	2,000,142	2,173,222
法人税、住民税及び事業税	346,943	650,660
法人税等調整額	231,714	△45,006
法人税等合計	578,657	605,654
四半期純利益	1,421,485	1,567,568
非支配株主に帰属する四半期純利益	15,852	26,101
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,405,632	1,541,467

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,421,485	1,567,568
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△59,523	△8,576
その他の包括利益合計	△59,523	△8,576
四半期包括利益	1,361,961	1,558,992
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,346,108	1,532,891
非支配株主に係る四半期包括利益	15,852	26,101

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

第1四半期連結会計期間において、「株式給付信託（BBT-RS及びJ-ESOP-RS）」より対象者へ41,271株の株式給付等を行い、自己株式が42,473千円減少しております。

また、2025年5月22日開催の取締役会決議に基づき、2025年5月23日に自己株式150,000株を360,750千円で取得いたしました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において自己株式は1,362,155千円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報及び収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1
	ITインフラ 関連事業	DX ソリューション 関連事業	CVC関連事業	計	
売上高					
一時点で移転される財	7,783,288	584,964	—	8,368,252	—
一定の期間にわたり移転される財	5,162,427	2,644,374	—	7,806,801	—
顧客との契約から生じる収益	12,945,715	3,229,338	—	16,175,053	—
外部顧客への売上高	12,945,715	3,229,338	—	16,175,053	—
セグメント間の 内部売上高又は振替高	65,513	15,376	—	80,890	—
計	13,011,229	3,244,715	—	16,255,944	—
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,371,118	422,775	△750	1,793,143	△2,119

	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高			
一時点で移転される財	8,368,252	4,814	8,373,066
一定の期間にわたり移転される財	7,806,801	—	7,806,801
顧客との契約から生じる収益	16,175,053	4,814	16,179,868
外部顧客への売上高	16,175,053	4,814	16,179,868
セグメント間の 内部売上高又は振替高	80,890	△80,890	—
計	16,255,944	△76,076	16,179,868
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,791,023	111,186	1,902,210

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去であります。セグメント利益又はセグメント損失 (△) の調整額には、報告セグメントに含まれない全社損益、セグメント間取引消去額等が含まれております。

3 セグメント利益又はセグメント損失 (△) の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報及び収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1
	ITインフラ 関連事業	DX ソリューション 関連事業	CVC関連事業	計	
売上高					
一時点で移転される財	8,377,201	588,650	—	8,965,851	—
一定の期間にわたり移転される財	5,342,409	2,990,940	—	8,333,350	—
顧客との契約から生じる収益	13,719,610	3,579,591	—	17,299,202	—
外部顧客への売上高	13,719,610	3,579,591	—	17,299,202	—
セグメント間の 内部売上高又は振替高	87,280	17,732	—	105,013	—
計	13,806,891	3,597,323	—	17,404,215	—
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,374,984	639,965	△1,253	2,013,697	△2,470

	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高			
一時点で移転される財	8,965,851	13,700	8,979,552
一定の期間にわたり移転される財	8,333,350	—	8,333,350
顧客との契約から生じる収益	17,299,202	13,700	17,312,902
外部顧客への売上高	17,299,202	13,700	17,312,902
セグメント間の 内部売上高又は振替高	105,013	△105,013	—
計	17,404,215	△91,312	17,312,902
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	2,011,226	107,239	2,118,466

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

- 2 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去であります。セグメント利益又はセグメント損失 (△) の調整額には、報告セグメントに含まれない全社損益、セグメント間取引消去額等が含まれております。
- 3 セグメント利益又はセグメント損失 (△) の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

これまで「ITインフラ関連事業」に区分していたスターティアレイズ株式会社が展開する業務効率化ソリューション事業（RPA〔Robotic Process Automation：定型業務の自動化〕やiPaaS〔Integration Platform as a Service：クラウドサービス間のデータ連携の自動化〕など）は、クラウドサーカス株式会社が展開する「デジタルマーケティング関連事業」のマーケティング支援を中心としたDX（デジタルトランスフォーメーション）領域に属する事業であり、いずれも企業の業務効率化やデジタル化を支援するという点で高い親和性があります。そのため、事業活動の実態に即した経営情報の開示を目的として、第1四半期連結会計期間よりこれらを統合し、従来の「デジタルマーケティング関連事業」から新たに「DXソリューション関連事業」として区分・改称しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	313,330千円	321,130千円
のれんの償却額	54,117千円	60,117千円